

兵庫 J C C

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

■ 第 19 号
■ 1991年12月25日発行
■ 編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives

■ 編集事務局

〒650 神戸市中央区海岸通1番地
兵庫県農業協同組合中央会
TEL: (078)333-5888

協同組合活動スナップ



▲(漁協)「ガザミ(ワタリガニ)ふやそう会」が“海を味わうフェスティバル”を開催。あなたが船主コーナーも…
〈姫路市妻鹿港で、11月22日〉



コープこうべの協同学苑が9月にオープン。 (生協)▲
写真の「資料館」は英国ロッチデール記念館に似せて建設されています。 〈三木市志染町の学苑内で〉

但東町農協婦人部が生協コープこうべと産地・消費地交流会。こんにゃくづくりも体験いただきました。

▼(農協) 〈但東町農協で、11月1日〉

県森林組合連合会は設立50周年記念と併せ、森林組合振興大会を開催し、今後の運動方針を決議しました。

〈県農業共済会館で、11月11日〉 (森組)▼



目次	1. 協同組合活動スナップ 1	6. 「アジアと女性」をテーマに交流深める 8
	2. '92 ICA 東京大会をめざして 2~3	~国際協同組合デー・第69回兵庫県記念大会で~
	3. 国際情報(世界をみつめる) 4	7. 協同組合運動に生きる 9
	~民主化めざす東欧の協同組合~	浜坂町漁業協同組合 参事 小林 岩彦
	4. 協同組合運動への提言 5	8. 「基本的価値」を考える(ICA大会史) 第4回...10~11
	関西学院大学経済学部 教授 安保 則夫	9. 協同組合研究短信<No.4> 12
	5. いま協同組合では〔活動紹介〕 6~7	~賀川 豊彦 研究・I~
	生協・農協・漁業・森組	

'92 ICA東京大会をめざして

協同の輪さらにひろがる

～県下各地で多彩な催し～



JCC トップ懇談会で挨拶をする竹本会長

県下協同組合の交流をすすめている兵庫 J C C は、7月6日の第69回国際協同組合デー・兵庫県記念大会にさきだち、第8回(第8年度)委員会(兼)トップ懇談会を開催し、90年度の活動報告、会計報告などを了承したあと規約改正、91年度の活動計画、予算、兵庫県の協同組合の共通行動目標案などを承認しました。

また、規約改正にともなう会長、副会長の互選をおこないました。

(順不同)

- 会長 竹本 成徳 氏(県生協連会長)
- 副会長 西田 一治 氏(県農協中央会会長)
- 副会長 酒部 龍三 氏(県漁協連会長)
- 副会長 谷 洋一 氏(県森林連会長)

もともと規約上は、会を代表する委員長職をおくことになっていましたが、兵庫 J C C 設立

後、これまで委員長を選任せずに運営してきました。しかし、設立満7年を経て兵庫 J C C の取り組みが拡大するにつれ、代表の必要性が高まったため、委員長を会長に呼称を変更するとともに任期を2年とする規約改正をおこない、会長、副会長を選出したものです。

J C C 女性委員会も設置

兵庫 J C C の専門委員会の一つに『女性委員会』を設けることも承認しました。

これは、県下協同組合の女性交流を一層促進し、あわせて協同組合運営への女性参加をすすめることを趣旨とするもので、過去5年間続けてきた各協同組合の女性役員を対象とする女性交流会の実績を基盤にしています。この委員会は県農協婦人組織協議会や県漁協婦人部連合会など協同組合の女性組織の代表で構成することになっています。

中堅職員交流会ではホンネの話も

兵庫 J C C を中心にした協同組合間交流の輪は、この秋、着実なひろがりを見せています。明石公園で約5万人を集めて開かれたコープこ

うべ・第7地区の協同組合まつりには、神戸市西農協のほか、県漁連（兵庫県漁業協同組合連合会）が参加し、魚拓教室やイカナゴなどの海産物の即売をおこない、参加者の好評をえました。

また、姫路市妻鹿漁港で開かれた県漁連はりま支所が主催する「海を味わうフェスティバル」にはコープこうべ・第8地区が協力しました。



“協同組合まつり”で楽しい交流(明石公園で)

このほか、生協都市生活は神戸市・メリケンパークで『産直祭』をおこない、北阿万農協など産直先の農協などとともに楽しく交流を深めています。

このほか、但東町農協管内でおこなわれた第17回目となる産地消費地交流会やコープこうべ県漁連、神戸市漁連が共催した「瀬戸内海・環境問題フォーラム」など、多方面で交流がすすんでいます。

こうした交流をさらにすすめようと、県下の生協、農協、漁協の、主に組合員交流を担当している職員が参加した、中堅職員交流会を10月21日、神戸市舞子ビラで開催しました。

交流会は、斎藤誠二・県漁連指導部長の「兵



県漁連の魚拓教室“うまくてきたぞ”
(協同組合まつりで)

兵庫県の協同組合の共通行動目標(案)」の報告に始まりました。コープこうべ・第7地区の荻原さんが、同地区の農協、漁協との交流の取り組みを報告したほか、県漁連の突々さん、県経済連の中田さんらがそれぞれの立場で協同組合間交流への期待をのべました。

意見交流では、生協との産直が始まった経緯や、エピソードなどが語られ、ジョークとも本音ともとれる言葉がとびだし、和気あいあいの交流となりました。このような、建前だけではなく本音で話し合える交流会を今後も続けていくことにしています。



なごやかな内にも時よりホンネが……
(JCC中堅職員交流会・舞子ビラで)

世界をみつめる



民主化めざす東欧の協同組合

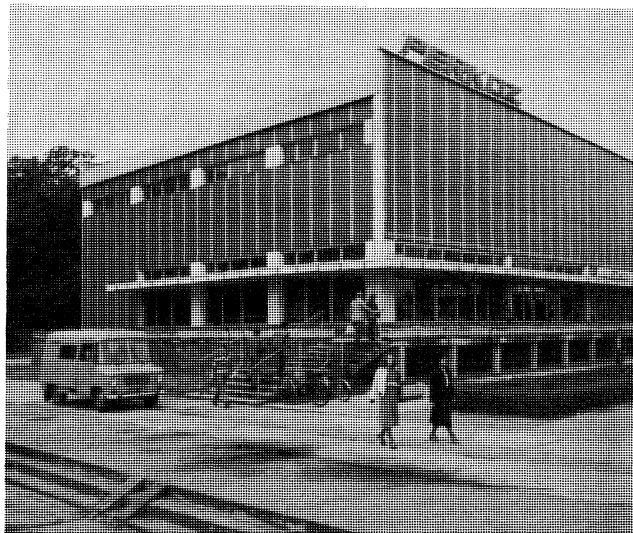
ソ連を含む東欧で進行している政治経済的な変革は、東欧の協同組合に著しい困難をもたらしている。民主的で市場経済的な変革が協同組合に「著しい困難」を与えると信じていたが、これは事実である。

東欧の協同組合は、大部分が19世紀末から20世紀初めに I C A (国際協同組合同盟) に加盟し、西欧の協同組合と同様に協同組合原則に基づいた伝統を持っている。しかし、問題は東欧が社会主義に移行した後生じた。

社会主義体制のもと、政府は協同組合を政治経済的な手段として重視したため、協同組合の指導者には政治力をもつ政党メンバーが選出、事実上は指名されてきたし、協同組合は特権的な位置を享受してきた。このことが今日の「著しい困難」の原因となっている。

たとえば、民主化である。これまで東欧では、協同組合は組合員から半政府機関と受けとめられてきた。しかし、特権的な地位を喪失したために、大部分の協同組合は民主的な方法で組合員の信頼を確保することによって組合員との関係を再確立することを余儀なくされている。

また、民営化の問題がある。大部分の協同組合は、その資産の民営化に係わる問題に直面している。とくに農協では、過去に強制的な集団化があったために、以前の所有者への農地返還もしくは補償の問題が深刻になっている。



ポーランド小農自助協同組合のスーパーマーケット

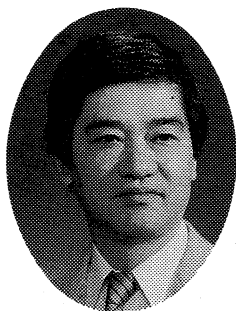
さらに、競争の激化をあげることができる。多くの東欧の協同組合は、これまで農産物を含む消費財の流通において独占的な地位を占めてきたが、今後は国内外の民間企業との厳しい競争が避けられなくなっている。

最後に、協同組合法の改正がある。協同組合の民主化のために、大部分の国では協同組合法が改正され、例えば単協の中央会加入は任意となった。このため、多くの国で民主的、自発的な手続きによって連合組織を再編成することが必要となっている。

このような東欧の協同組合の困難は、しかし民主的な協同組合への生みの苦しみである。これに対して支援を行うため、I C A は東欧支援プログラムを作成し、西欧の協同組合を中心に必要な資金を造成しているが、わが国の協同組合も全国農協中央会、日本生協連合会が資金を拠出して、これに積極的に協力している。

(全国農協中央会 国際部国際課長 塚田和夫)

協同組合運動への提言



生活者の 共生を見据えた 国際化の進展

関西学院大学経済学部

教授 安保 則夫

私たち関西学院大学生協では、「アジア交流委員会」を組織する学生組合員を中心に、タイ北部の農村との交流活動を実施している。昨年夏の最初のタイ訪問へは私自身も引率者として同行したが、参加者にとってのその体験は月並みなカルチャー・ショックといった次元をはるかに超えるものであった。というのは、タイの農村での畑の開墾や田植の手伝いといった労働を通じて、ごく短期間ではあっても、現地の村人や子供たちと一緒に生活を共にするということがあったからである。この体験自体が参加者にとって鮮烈な印象となったことはいうまでもないが、より重要なことは、その体験を通じて私たち一人一人が自らをトータルな「生活者」として捉える確固たる視点をもたなければ、国際交流などといっても決して実のあるものにはならないということを学んだことであろう。

21世紀を迎えつつある日本において、国際化への対応ということがキーワードとなって久しい。現に官民を問わずさまざまなレベルで国際化の進展が図られている。しかし、その実績にもかかわらず、日本での国際化のあり方に対する反発・摩擦もまた生じている。外国で家族とともに居住しても、日本人だけで閉鎖的な社会を構成し、現地の生活にとけこもうとしない日

本人ビジネスマンの実態。語学研修のためと称して外国でのホームステイしたまではいいが、生活習慣が異なるといっちはクレームをつける日本人学生の事例、等々。いちいち挙げればキリがないが、これらの事例の背後に浮かび上がってくるのは、「経済大国」「金満日本」においていつしかトータルな「生活者」としての視点を欠落させてきた私たち日本人自身の姿である。テレビや雑誌に特集されるグルメやファッションの企画に象徴されるように、今の日本で私たちが生活について語るとすれば、いかに美味しいものを食べ、綺麗な服を着て、快適な環境で過ごすかといったことしかない。今回のタイ農村との交流活動において突きつけられたのは、こうした状況がいかに特殊日本的な状況であり、そのなかで私たち自身もまた「生活者」であることを欠落させたいびつな消費者に成り果てているという認識であった。

そうだとすれば、問題は二重である。第一に今後の国際化のあり方を考える場合、各種の事業活動や取引、イベントの実施などに示される実績からのみでなく、異なる国の人々がそれぞれトータルな「生活者」としてどう「共生」しうるかということをも課題として追求していくことが必要であろう。とはいえ、この課題が決して生易しいものでないことは明らかである。上に述べてきたように、その課題の追求は同時に私たち自身においてこれまで欠落させてきた「生活者」としての視点をどう再生させていくかという問題にぶちあたってくるからである。だが、これこそ、本来生協が正面切って立ち向かっていくことのできる課題であると思うのだが、いかがなものだろうか。

いま協同組合では 活動紹介

生協 すすむ国際交流

1992年のICA東京大会を控えて、生協では国際交流がすすんでいます。特に、日生協（日本生活協同組合連合会）にアジア協力基金を設けるなど、アジアの国々の協同組合との交流と支援に重点においています。

日生協は、中華全国総工会と共催で『第2回日本生活文化用品展』を10月10日から20日間北京で開催し、日本の生協運動の歴史と現状を紹介したほか、日本の日常生活用品を展示しました。この用品展にはコープこうべも協力。ベビーや高齢者などを対象にしたやさしさあふれるコーポポト商品や環境にやさしいコープ商品などを提供したほか、生活文化活動などのパネル展示をおこないました。

大学生協でもアジアとの交流活動に取り組んでいます。神戸大学生協は、一昨年から韓国の大学生協設立の動きに協力していますが、この11月5日には、韓国消費者協同組合中央会の大学生協推進委員会と大学生協の代表12人を招待し、日本の生協活動を紹介したほか来年には、代表団が韓国を訪問することにしています。

また、関西学院大学生協では、アジアの民衆の生活を肌で感じようと、昨年夏に続いて今年の8月、夏休みを利用して学生組合員が理事長らとともに、タイ国東北部の集落を訪問し、ホームステイをしながら、実際の生活を体験してきました。

こうした国際交流をさらにすすめるため、兵庫県生協連合会では、訪問団を派遣して平成4年2月にタイ国の生協を訪れることにしています。

農協

きずな、改革、実践へ
県農協大会で誓い合う

県下の農協が今後の進むべき方向を決定する「第25回兵庫県農協大会」が11月19日、県農業会館で開かれました。



21世紀に向け決意表明をする中央会西田会長

この大会は3年に1回開催されているもので、転換期を迎えている農業・農村の情勢を踏まえ、“新生JA・新たなきずなづくりと改革をめざして”をスローガンに「地域と人のふれあう農協活動3か年運動」の実践を決議し、いきいきとした地域農業づくり、組合員の豊かな暮らしと調和のとれたまちづくりに取り組むとともに、農協CI活動や系統農協組織の見直しによる農協改革の実践を誓い合いました。

またこの大会の決議に基づき、“農協”として永年親しまれてきました農業協同組合の愛称と麦穂マークを、平成4年4月1日から新しく“JA(ジェイエイ)”とJAマークに変え、21世紀をひかえ農協もさらに大きく飛躍するために内外ともにイメージ新をはかります。



新しいJA(ジェイエイ)マークです

漁協

「淡路・海のフェスタ'91」
を開催



ひろーい浜辺で綱引き大会
(慶野松原海水浴場で)

淡路島の重要産業のひとつ、漁業への関心を深めていただこうと、地域内外の若い女性を対象に8月10日、慶野松原海水浴場（三原郡西淡町）で、淡路地区漁協青壮年部連合会並びに県洲本農林水産事務所、県漁連淡路支所、(社)淡路水交会の主催で『淡路・海のフェスタ'91』の祭典が開催されました。

当日は、漁業体験としての地曳網漁業の体験やその捕れたての魚をつかい、漁業者が講師となり即席料理講習会を開きました。昼食にはもちろん海鮮バーベキューのメニューに、若い女性からたいへん好評でした。また、ヤマハ関西(株)とウニドサーフィン同好会の協力で、マリッジットの試乗会やボードセーリング講習会を行ったり、浜辺では、若い女性たちの応援を背に、漁協青壮年部対抗綱引き大会や、ビーチバレーなどが行われ、和気あいあいのなかで、交流を深めあいました。

森組

心の豊かさを求めて
～森林浴～

国民の生活意識は「物の豊かさ」から「心の豊かさ」を求める方向へと変化し、とくに森林(空間)にもその場を求める意向と、取り組みが全国各地で実践されてきています。

兵庫県でも、保健休養林や、林間の文化・学習活動に必要な施設などの整備が進められており、自然とふれあう「ひょうご森林浴場50選」を指定・公表しております。

この森林浴場の維持管理者は市町ですが、駐車場、遊歩道、ベンチ、キャンプ場等が整備されていますので、家族や、グループなどで、お気軽に山の精気ふれられてはいかがでしょうか。

「ひょうご森林浴場50選」

区分	森林浴場名	区分	森林浴場名
阪神	摩耶山	西播磨	瓜生羅漢
	丹生山		利神城
東播磨	有馬と紅葉	但馬	杉坂瑠璃
	布引と再度		来日岳
西播磨	ひよどり越園林	丹波	三瀬の
	甲山森林公園		阿瀬路
西播磨	一乗寺山	淡路	白郷静小上山
	清五ヶ峰		妙見
西播磨	藤ノ木山自然公園	淡路	天川と青倉
	書写彦山		黒道寺溪谷
西播磨	グリーンエコー	淡路	糸井溪
	七種山		岩屋山と高源寺
西播磨	鶏籠蒲上ヶ	淡路	奥谷四十郎
	菖蒲上ヶ		妙見十郎
西播磨	福知溪谷	淡路	三熊寺
	赤西溪谷		常隆民
西播磨	鍋ヶ谷高原	淡路	五色
	鍋ヶ谷高原		五

「アジアと女性」をテーマに交流深める

～国際協同組合デー・第69回兵庫県記念大会で～

世界の協同組合関係者が、運動の発展と平和な社会の実現を誓い合う国際協同組合デーの第69回兵庫県記念大会が7月6日(土)、神戸市東灘区のコープこうべ生活文化センターで開催されました。

「アジアと女性と協同組合」をテーマに、県内の生協、農協、漁協、森林組合の関係者500



人が参加。タイの生協関係者も招待し交流を深めあいました。

大会では、主催者の兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)の竹本成徳会長(県生協連会長)が、あいさつのなかで「アジア諸国の人々と手を携え、相互交流を深めながら、協同の輪をさらに広げよう」と協同組合の国際的協力を積極的に進めることを強調。またタイから代表してランチャニー・チャンタグルさんは、タイでの協同組合運動の実態を紹介しながらあいさつを行いました。

その後、神秘的なタイの民族舞踊が披露され記念講演では、ジャーナリストとしてアジアの



数々のパネルや民芸品に人々の視線も熱く
(「アジアの生活展」・コープこうべ生活文化センターで)

女性問題などに取り組んでいる朝日新聞編集委員の松井やよりさんが「アジアの女性・日本の女性」をテーマに、経済発展の陰でアジアの女性たちが直面しているさまざまな問題と日本社会・日本人とのかかわりについて報告しました。



記念大会のあと歓迎レセプションも行われました

また、この大会にあわせ「アジアの生活展」を7月2～6日まで同センターのアートプロムナードで開催し、アジア諸国の数々の民芸品やパネル写真での生活の様子に訪れた人々の注目を集めていました。

協同組合運動に生きる



～ 明日の漁業 を考える ～

浜坂町漁業協同組合

参事 小林 岩彦

兵庫県の最北西端に位置する浜坂町は東に香住町、西は鳥取県岩美町、北は日本海に面しており、東西に18km、南北に8kmと細長く、いわば日本海にはりついた様な形で33kmに及ぶ海岸線を持ち、古くから漁業の盛んな地域として知られています。特に沖合底曳網漁業は他地区に先がけて行われたと聞いております。

町内には浜坂、諸寄、居組港の第2種漁港と三尾、釜屋港の第1種漁港の5つの港があり、昭和49年8月合併により浜坂町漁業協同組合として発足致しました。私は昭和24年漁業制度改革の年、現在の居組支所に入組致しましたが、当時沿岸船は2トン程度の木船、底曳船も20トン未満の木船、機関は焼玉エンジンで近海を日帰り操業をしており、漁業資源も豊富で処理に困る程とれていた事が思いだされます。その後40数年漁船漁具の変遷には筆舌では言い表わせないものがあります。

当組合は兵庫県から島根県隠岐北方に至る海域での沖合底曳網漁業、ソ連・北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）に及ぶ日本海全域でのスルメイカを対象とする沖合いか釣漁業、10トン未満船で沿岸漁業場を操業する一本釣漁業等で生産活動を展開しており順調な伸長をみておりました。しかし、昭和40年代後半から2度に亘るオイルショック、50年代に入り各国の200海

里規制の定着による漁場の狭隘化、漁船・漁具の大型化による無秩序な操業等の様々な原因により資源の枯渇が急速に進み、それに加え海外からの輸入による魚価の低迷により漁業経営が極度に悪化し倒産・廃業が相次ぎ組合経営を圧迫してきております。現在、それに対応すべき体制づくりが急務となっております。

その一つとして、近年資源培養管理型漁業が叫ばれる様になりましたが当地区では明治の昔から漁場造成に力を入れ今も受け継がれております。行政の指導協力の基に不要漁船を利用した沈船漁礁、ブロックによる大型漁礁等長期的な展望のもとに漁場造成に努め、着々とその成果を得ている処であります。尚いっそう強力に進めて行かねばと思います。二つ目に漁業従事者の高齢化と後継者不足も深刻な問題となっており、これらの対策として老人でも働ける職場を作るため増養殖施設の設置と中間育成放流事業を積極的に行い、また、後継者には定住を促進させるため漁民アパートの建設も考慮し将来を担う若者が魅力ある職場として漁業に従事し安定した所得が得られる様に漁港整備と漁業施設の充実を早急に図らねばならないと考えます。三つ目に水産資源の減少による水揚高の低下をカバーし、消費者ニーズに即応した形で活魚施設を設置充実して付加価値型漁業を目指し、漁業者の経営安定を計らねばなりません。さらには、県民サンビーチの海水浴客や温泉利用施設の進出によるレジャー客の増加に対して、漁協直営の水産物展示即売所、宿泊施設等観光事業にも手がけてゆきたいと思っております。以上のように多くの課題を抱えておりますが、組合員の理解と協力を得ながら役職員一丸となって漁業所得の向上と生産の安定の為に努力して行く所存でございます。

『基本的価値』を考へる ICA大会史

— 第 4 回 —

第 2 回～9 回大会までの議題の概要

今回は第 2 回大会から第 9 回大会までの議題の概要を紹介します。

第 2 回大会（1896年10月、パリのミュゼ・ソシアル）でも主たる関心は、労働者に対する利潤分配の問題であり、冒頭からそれが論じられ、恒久的な委員会をつくり、「共同経営」や「利潤分与」の意味を確定することをグリーンングが提案しています。初期の協同組合運動が19世紀の大問題であった社会問題（労働者の社会的経済的困難）の解決の手段として意識されていたことを反映しています。

生協ひいては都市を中心に発展してきた協同組合が農村部で信用、生産、購・販売の各分野を不可欠なものとして果たすべき役割への期待が語られ、決議されているのが目を引きます。

国際的連携の強化

翌日の会議では「農工業での協同組合生産を刺激し、様々な国の協同組合人をより近く効果的に結び付けるために」国境を越えて相互訪問、広報、統計整備を行い、「直接の国際的取引関係」を組織するように決議をしています。ここで想定されているのは欧州内でのことですが、生産者と消費者の組合が直接に国境を越えて取引をして労働者の連携を強めようという意図が見えます。国際連帯を協同組合間協同で実現しようとしたと理解しても良いで

しょう。

第 3 回大会は翌年 9 月に、オランダ、ロッテルダム（注）の北にあるデルフトで開かれています。主たる議題は同盟の規約問題ですが、前 2 回の大会と同様、利潤分与と共同経営を巡って論争がなされています。

3 年を経て 1900 年の 7 月に再びパリで開かれた第 4 回大会ではこれまで論じられてきた問題（利潤分配及び国際的協同組合間提携）に加えて、イタリア庶民銀行運動の創始者であるルイジ・ルツィアツィによって協同組合教育とその組織化の手段が論じられ、ドウ・ボワヴによって協同組合を通じての社会平和の達成が論じられています。この大会で同盟の性格が各国の中央連合組織の同盟に変わり、個人参加が認められなくなっています。これは同盟が協同組合という組織体の集合として確立したことを意味するでしょう。

社会問題解決の議論は後ろへ

第 5 回大会（1902年 7 月、マンチェスター）の報告集によれば、261 組合からの 546 人の代表が参加し、個人参加を入れるとその倍の人数の参加者になります。

この大会での主要なテーマは、住宅問題と土地開拓の問題です。都市労働者の住宅問題と農村部における小農の土地開拓の問題に協同組合がどのような役割を果たし得るか、が論じられます。同時に各国からの現状の報告と、特に利潤分与の問題についての報告が多く寄せられています。ドウ・ボワヴが再び「平和的手段による社会問題の解決を望む人々を共に結び付ける

手段としての」国際協同組合同盟を論じています。しかし、社会問題の解決の手段という協同組合の位置付けは、利潤分与の議論と共にこの頃を境として議論の表舞台から退いて行っているようです。初めて協同組合生産物の展示会が開かれているのは、多少お祭り気分を交えられるようになったのでしょう。報告書はそれを「協同組合生産が確立された」しるしと位置付けています。

国家の援助を巡って大論争

第6回大会〔オーストリア(現ハンガリー)、ブタペスト、1904年9月〕報告書序文は、17以上の国からあらゆる「学派」、今までは同席さえ拒んできたもの同士が席を同じくして議論し少なからぬ成果が上がった、と当り触りなく記しています。報告書でのこの様な言い方が示唆する通り、実は協同組合のあり様を巡って大論争が起こり、ドイツ・オーストリアのライファイゼン系、シュルツェ系の大部分の組合がICAを脱退することになります。

その問題とは国家をはじめとする外部の援助を協同組合が受け入れることを巡っての問題です。それが許容できるか、どういう観点から適当と認め得るか、が主としてドイツでの国家援助受け入れを巡って論じられました。「それを巡って意見は大きく分かれ、双方とも感情を沸騰させた」結果、冷静な議論が出来なかったと記されています。第3の討議議題は、協同組合中央銀行を巡るものですが、しかしこの問題も、協同組合中央銀行と国立銀行の関係という形で実は第2の大問題と関係があります。

この他、農村地域での流通に関連する組合の確立と、それに関連して東ヨーロッパにおける協同組合運動の遅れの原因を巡っての議論がされています。同時に協同組合原則とその実践に関する教育が、協同組合だけではなく、政府、学校、大学で行われること、協同組合婦人ギルドについて、大会の正式議題にはならなかったものの論文が寄せられ、議論されたようです。この頃には、協同組合における教育の促進が、ロッヂデール出発当初の広い意味での教育(特に自己教育の場の提供)から、協同組合(についての、のための)教育に変わっていたように見えます。他には「協同組合と平和」について決議がなされ、各国からの報告に日本が入っていることを付け加えておきましょう。

第7回大会は1907年の9月にイタリア北部のクレモナで開催されました。議論のテーマは4つ、農業全国組織の問題、卸売協同組合の重要性、労働者・小農を協同組合がどのように援助し得るかの問題、及び協同組合における婦人の役割です。今もなお問題になっていることが論じられていたわけです。

1910年9月にハンブルクで開催された第8回大会ではICAを全国組織の連合体とする規約改正が提案されましたが、これはイギリスの反対で否決されました。

第9回大会(1913年8月、グラスゴー)は、国際平和に関する決議を行い、国境を越えての協同組合間直接取引を論じています。そして平和決議に込められた願いにもかかわらず、この翌年、第一次世界大戦が始まり、大会は8年後まで開かれないうちに終わります。

(姫路獨協大学 中久保 邦夫)

協同組合研究短信〈No. 4〉

賀川豊彦研究・I

昭和63年は、福音を説く敬虔な牧師として灘購買組合、神戸消費組合の創業にかかわり数々の困難を排して協同組合による医療利用事業、協同組合保険を提唱し、実現させた賀川豊彦誕生百年に当たった。

賀川が手がけ、なしとげたもの、今日に語りかけるものは何かをめぐって、東京で神戸で記念講演や討論会が数々もたれた。これら諸会合での報告や論議、再評価等々を一望の下に俯瞰ふらんできる資料は目下のところとりまとめられてはいないが、賀川豊彦は社会改良運動の源泉として絶えることなく回顧され、明日の糧とせんとする試みは続いている。

まず、賀川豊彦記念・松沢資料館（館長は、ご子息の賀川純基氏）による賀川豊彦関係基礎資料の復刻があげられる。賀川の思想、事業が鮮明に表現されている個人雑誌『雲の柱』（大正11年～昭和15年）の復刻があり、続いてキリスト教ジャーナルの原点とよび声の高い全国伝道＝神の国運動の機関紙『神の国新聞』（昭和5～17年）、前記『雲の柱』の姉妹誌的性格の強い賀川の設立した「イエス友の会」の機関誌『火の柱』も全号再現された。

更に、神戸スラム街時代の活動が種々証言されている明治39年から大正3年に及ぶ日記、ノート、神戸イエス団年報等の『賀川豊彦初期史料集』、戦後の平和運動、世界連邦運動の機関誌たる『世界国家』（昭和22～30年）も全7巻にまとめられ刊行された。これらの資料はいずれも賀川豊彦研究にとって不可欠な第一級資料である。

膨大な例を見ない文献目録と期待されている賀川豊彦書誌は、同館学芸員の米沢和一郎氏等により年内刊行がはかられつつある。

これらの基礎資料の整備は、今後の賀川豊彦研究を一層実り豊かにするであろう。

賀川を精神を引継ぎ、今日わが国協同組合運動の牽引車的役割を果たしつつあるコープこうべの前身、灘・神戸期の機関誌「新家庭」、「協同」等も旧灘神戸生協によって昭和59年から61年にかけて刊行された。これも特筆されてよい。

賀川豊彦を研究対象とする代表的な逐次刊行物の継続もあげておきたい。三種ある。『雲の柱』『賀川豊彦研究』『賀川豊彦論叢』である。『雲の柱』は上記松沢資料館の機関誌である。現在9号まで刊行されている。第7号は賀川豊彦誕生百年特別号で、農民運動、労働運動、協同組合運動等々関係領域にわたる賀川の今日的評価が試みられている。

『賀川豊彦研究』は、賀川が神戸から東京・本所深川に活動の拠点をおいたゆかりの地に建つ本所賀川記念館が発行する。この5月刊の第20号では、雨宮栄氏の「賀川豊彦と木立義道」と題する寄稿が載る。木立は神戸期来の同労者。

（協同組合図書資料センター 古桑 實）

編集後記

今回の第19号は諸事情により発行が大幅に遅れ、関係者の皆様にたいへんご迷惑をおかけいたしました。

兵庫JCCでは、県下協同組合の「共通の行動目標」の成文化と、その実践にむけて様々な活動を展開しつつあります。今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。（T）